

## 令和 2 年（2020 年）職場における熱中症による 死傷災害(休業 4 日以上)の発生状況

＜神奈川県労働局管内 令和 3 年 1 月 31 日時点速報値＞

### 1 熱中症による死傷者数の推移

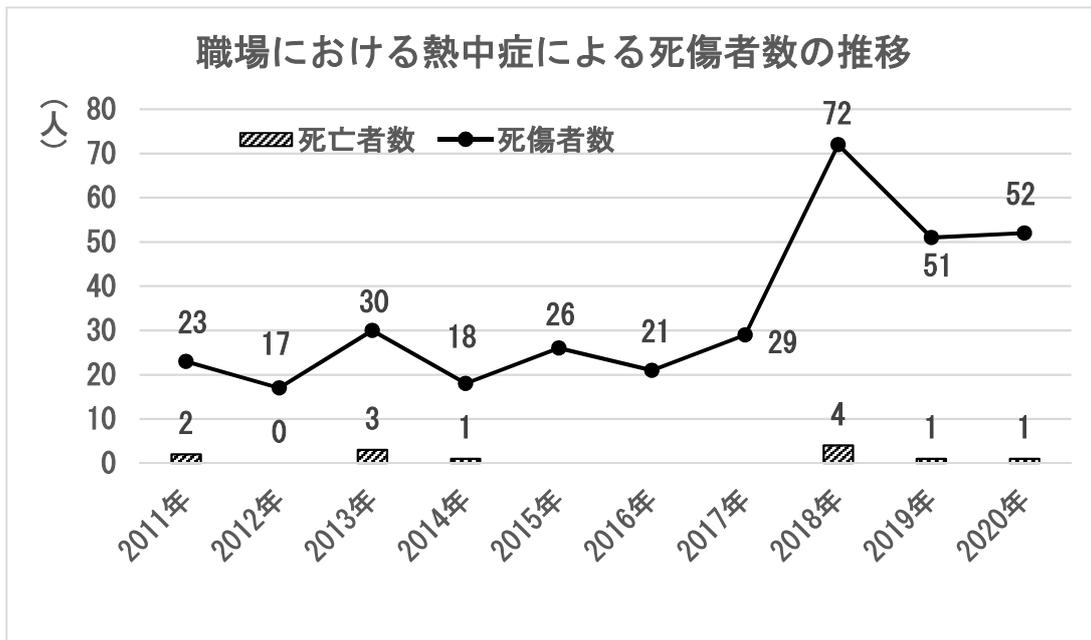
過去 10 年間の熱中症による死亡者及び休業 4 日以上の上業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）は、以下のとおりである。

2020 年の死傷者数は 52 人と、記録的な猛暑となった 2018 年以降高止まりとなっている。また、死亡者も 3 年連続で発生している。

職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
23 (2)	17 (0)	30 (3)	18 (1)	26 (0)	21 (0)	29 (0)	72 (4)	51 (1)	52 (1)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



### 2 業種別発生状況

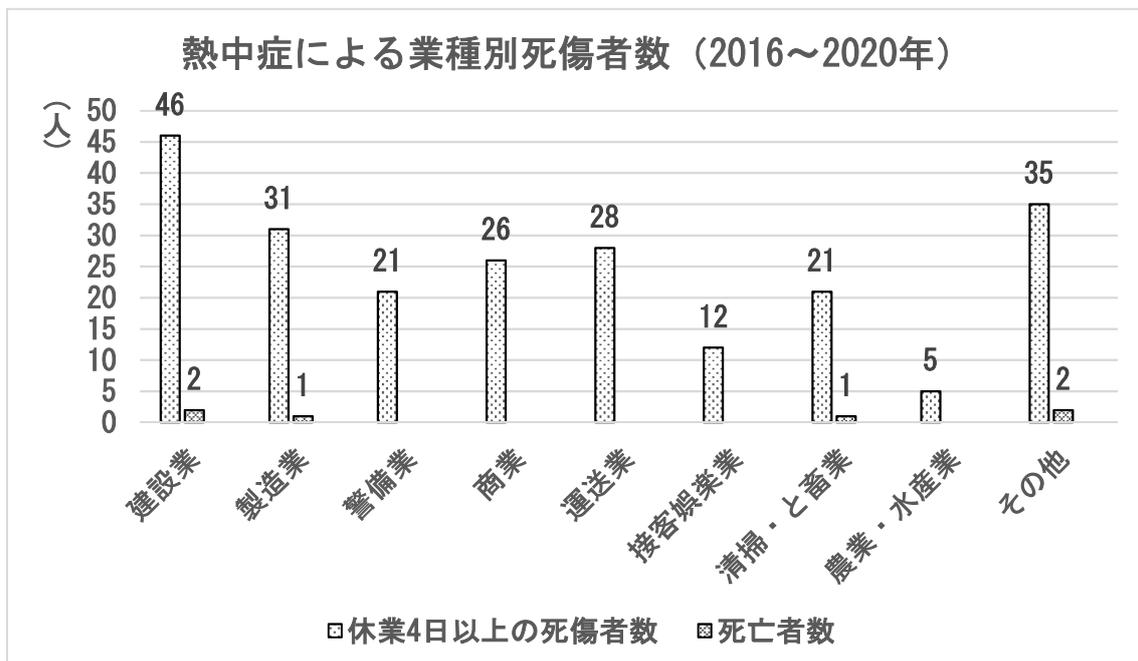
過去 5 年間（2016～2020 年）の業種別の熱中症の死傷者数をみると、建設業、製造業及び運送業で全体の 5 割近くを占めているものの、商業、警備業及び清掃・と畜業等幅広い業種で多く発生している。

2020 年は、運送業で 10 人、建設業で 9 人、次いで警備業と清掃・と畜業で 7 人となっている。死亡災害は、清掃・と畜業で 2016 年以降では初めて 1 件発生し、死亡災害としては 2018 年以降 3 年連続の発生となった。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（2016～2020年）（人）

	建設業	製造業	警備業	商業	運送業	接客 娯楽業	清掃・ と畜業	農業・ 水産業	その他	計
2016年	5 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	21 (0)
2017年	12 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	5 (0)	29 (0)
2018年	8 (1)	11 (1)	8 (0)	14 (0)	7 (0)	7 (0)	4 (0)	2 (0)	11 (2)	72 (4)
2019年	12 (1)	8 (0)	3 (0)	5 (0)	6 (0)	2 (0)	5 (0)	2 (0)	8 (0)	51 (1)
2020年	9 (0)	5 (0)	7 (0)	3 (0)	10 (0)	1 (0)	7 (1)	1 (0)	9 (0)	52 (1)
計	46 (2)	31 (1)	21 (0)	26 (0)	28 (0)	12 (0)	21 (1)	5 (0)	35 (2)	225 (6)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



### 3 月・時間帯別発生状況

#### (1) 月別発生状況

2016年以降の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体の45%が8月に発生し、これに7月発生分を合わせると全体のほぼ8割となる。死亡災害6件は7月と8月に集中している。

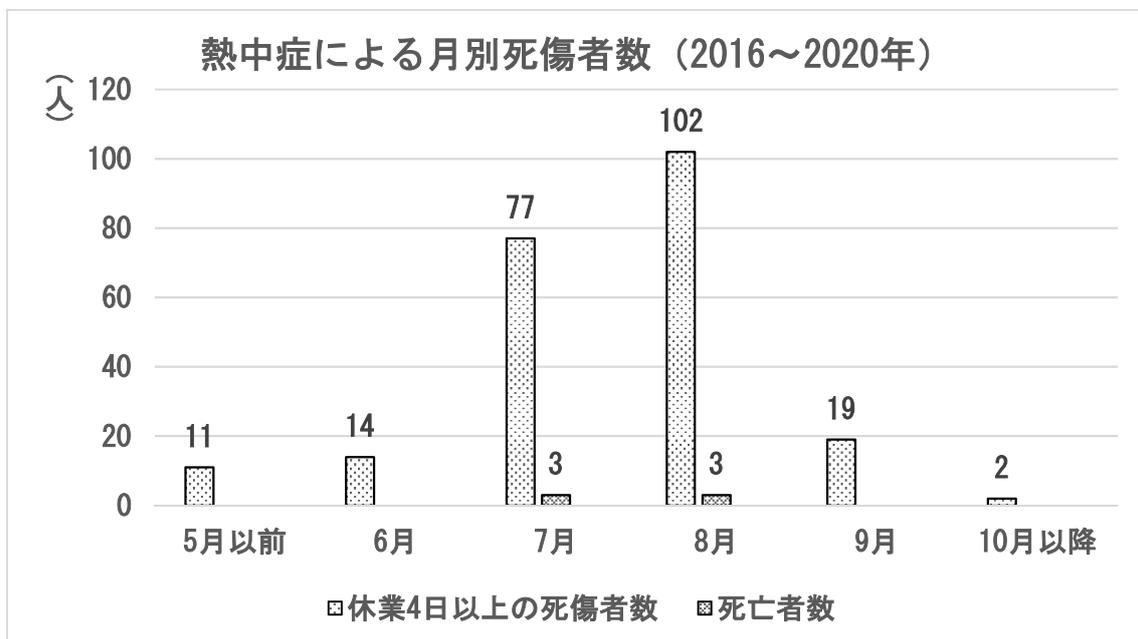
2020年は、死傷者数全体の65%が8月に発生し、死亡災害も8月に発生して

いる。発生日の最も早い災害は5月で、最も遅いものは10月である。

熱中症による死傷者数の月別の状況（2016～2020年）（人）

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
2016年	1 (0)	1 (0)	9 (0)	7 (0)	3 (0)	0 (0)	21 (0)
2017年	3 (0)	1 (0)	11 (0)	14 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (0)
2018年	2 (0)	6 (0)	36 (3)	23 (1)	4 (0)	1 (0)	72 (4)
2019年	4 (0)	2 (0)	15 (0)	24 (1)	6 (0)	0 (0)	51 (1)
2020年	1 (0)	4 (0)	6 (0)	34 (1)	6 (0)	1 (0)	52 (1)
計	11 (0)	14 (0)	77 (3)	102 (3)	19 (0)	2 (0)	225 (6)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



## （2）時間帯別発生状況

2016年以降の時間帯別の死傷者数をみると、11時台及び14～16時台に多く発生しているほか、9時台以前及び18時台以降にも多く発生している。なお、日中の現場作業終了後に会社事務所に戻ってから、または、帰宅してから体調が悪化したというケースも散見される。

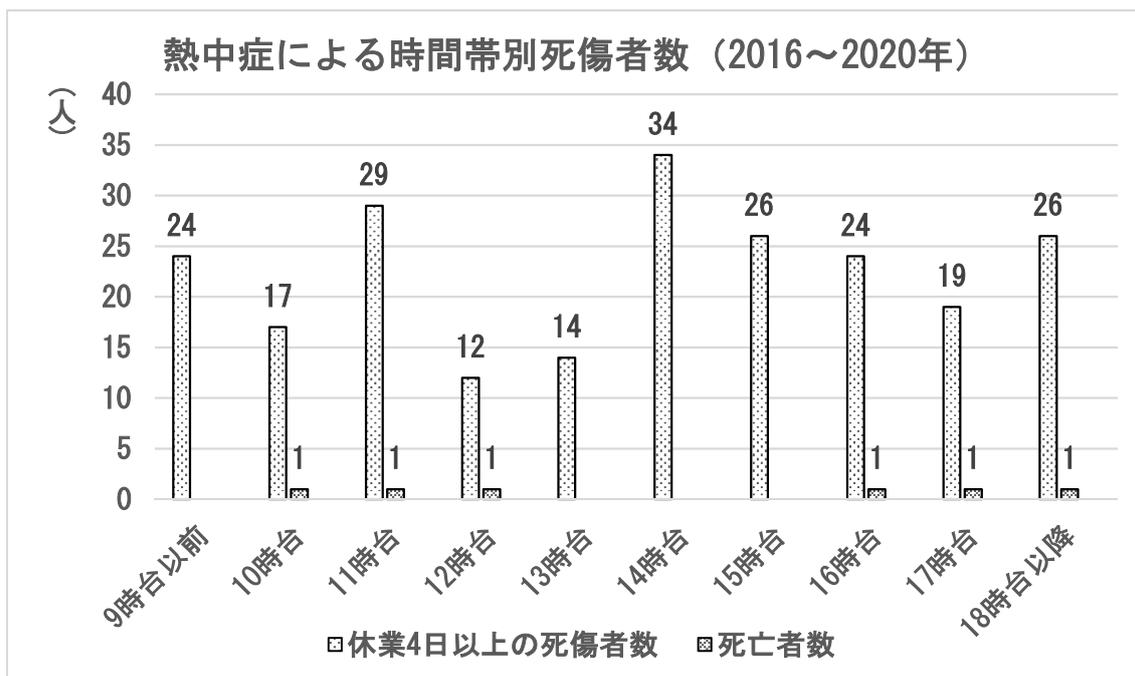
2020年は、18時台以降で最も多く発生しており、これは過去5年間で初めてである。内訳は、18時台3人、19時台1人、20時台2人、21時台2人、23時台1人となっている。また、9時台以前の内訳は、8時台1人、9時台2人である。なお、死亡災害は18時台に発生している。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況（2016～2020年）（人）

	9時 以前台	10時 台	11時 台	12時 台	13時 台	14時 台	15時 台	16時 台	17時 台	18時 以降台	計
2016年	3 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	5 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	21 (0)
2017年	2 (0)	3 (0)	6 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	5 (0)	29 (0)
2018年	7 (0)	8 (1)	7 (1)	7 (1)	6 (0)	8 (0)	6 (0)	10 (1)	5 (0)	8 (0)	72 (4)
2019年	9 (0)	3 (0)	8 (0)	0 (0)	4 (0)	13 (0)	4 (0)	3 (0)	5 (1)	2 (0)	51 (1)
2020年	3 (0)	3 (0)	7 (0)	3 (0)	3 (0)	7 (0)	7 (0)	5 (0)	5 (0)	9 (1)	52 (1)
計	24 (0)	17 (1)	29 (1)	12 (1)	14 (0)	34 (0)	26 (0)	24 (1)	19 (1)	26 (1)	225 (6)

※ 9時台以前は0時台～9時台、18時台以降は18時台～23時台を指す。

※ ( ) 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



#### 4 2020年の熱中症による死傷災害の特徴

##### (1) 年代別の発生状況

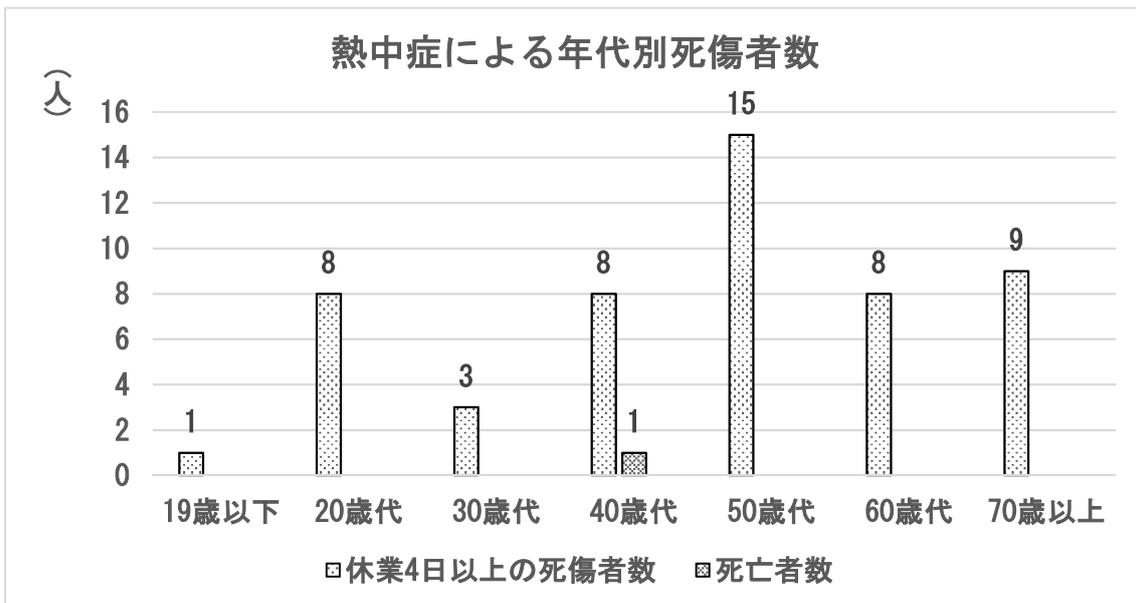
2020年の年代別の死傷者数をみると、50歳代が15人と最も多く、次いで70歳以上が9人となっている。50歳以上の死傷者数が全体の6割以上となっているが、20歳代の死傷者も8人となっている。

なお、就業労働者の年齢構成の影響もあるものと思われるが、警備業と清掃・と畜業の2業種で、60歳以上の全死傷者（17人）の47%、70歳以上の全死傷者（9人）の67%を占めている。

熱中症による死傷者数の年代別の状況（人）

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
死傷者数（人）	1	8	3	8(1)	15	8	9	52(1)
割合（%）	1.9	15.4	5.8	15.4	28.8	15.4	17.3	100.0

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である



##### (2) 屋内作業での発症

2020年の死傷災害の3割強（16件）は明らかに屋内作業に従事していたと考えられる状況下で発生している。特に、清掃・と畜業、製造業で屋内災害の割合が高く、熱中症は、必ずしも屋外での作業のみで発症しやすいわけではないことに留意が必要である。

屋内作業においては、炉や厨房等特定の熱源がない場合であっても、室内清掃作業や倉庫内作業等高温多湿と考えられる室内環境において多く発生している。

5 平成30年から令和2年までの熱中症による死亡災害の概要

番号	発生年月 発生時刻	業種 事業場規模	起因物 事故の型	発生概要
1	平成30年 7月 16時頃	その他の事業 10名～29名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	草刈りの補助業務を行っていた被災者が熱中症を発症して倒れたもの。
2	平成30年 7月 12時頃	建築工事業 ～9名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	個人住宅の2階ベランダ改修工事のために防水工事を行っていた被災者が熱中症を発症して倒れたもの。
3	平成30年 7月 10時頃	化学工業 10名～29名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	金型作業室内で作業を行っていた被災者がトイレ内で倒れているのが発見されたもの。救急搬送されたものの、死亡が確認された。(熱中症)
4	平成30年 8月 11時頃	その他の事業 ～9名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	変電設備の点検作業に従事していた被災者が変電設備の前で意識を失って倒れているのが発見されたもの。(熱中症)
5	令和元年 8月 14時頃	土木工事業 100名～299名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	土地区画整理事業造成工事において、施工管理補助業務に従事していた派遣労働者が、帰宅で利用する最寄り駅構内で倒れているのを発見されたもの。当日は気温が30度を超過しており、高温環境下で測量及び巡視作業を行っていた。病院で熱中症の診断を受け、8日後に死亡したもの。
6	令和2年 8月 18時頃	清掃・と畜業 (産業廃棄物 処理業) 50名～99名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	夏休み明けの初日、焼却炉を稼働する準備作業において、高温環境下で、炉内の補修材をミキサーで練る作業をしていたところ、泡を吹いて心停止状態で倒れていたのを同僚に発見された。(熱中症)